

## 謝辞

温かな春の日差しが琵琶湖を照らし、新たな挑戦への希望を抱くこの良き日に、私たち大学院修士課程修了生のために、このような盛大な学位記授与式を挙行していただき、誠にありがとうございます。またご多忙の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様をはじめ、教職員の皆様方に、修了生一同、心より御礼申し上げます。

今、大学院に入学した日のことが、昨日のことのよう思い出されます。琵琶湖や比良の山々に囲まれたびわこ成蹊スポーツ大学で、多くの経験を重ね、本日この日を迎えられることを大変嬉しく思います。

大学院での研究は決して楽な道のりではなく、それぞれが自分の研究テーマと向き合いながら、試行錯誤を重ねてきました。思うように研究が進まず、悩んだことや、自分の考えに自信が持てなくなることもありました。それでも、その度に、先生方からのご助言や、共に学ぶ仲間存在に励まされながら、一步ずつ前に進むことができました。

スポーツの世界では、一人の力だけでは乗り越えられない壁も、仲間や支えてくださる方々の存在があってこそ乗り越えられると言われております。大学院での学びも、また同じであり、多くの方々の支えの中で研究に向き合い、この日を迎えることができたのだと改めて実感しています。

私は、学部とは異なる分野であるスポーツ栄養の研究に取り組むため、長期履修制度を利用し、大学院で三年間学ぶ機会をいただきました。分野を変えての研究はまさに一からのスタートでしたが、その過程で多くの先生方から温かいご指導と励ましをいただき、研究を続けることができました。三年間かけて一つの研究を形にしていく中で、研究の難しさと同時に、その面白さや達成感を強く感じました。こうして研究を続けてこられたのも、先生方が一人一人の研究に真摯に向き合い、親身にご指導くださったおかげであり、心より感謝申し上げます。

また、学年や立場に関係なく、院生同士で意見を交わした時間も、私にとってかけがえのないものとなりました。多くの時間を共有し、切磋琢磨した院生の仲間たちの存在に、何度も勇気づけられました。分野は異なっていますが、互いの研究や考え方に触れることで、学ぶ楽しさや自分自身の視野の広がりを感じることができました。

振り返れば、学部から数えて7年間、この大学で学び続けてまいりました。琵琶湖のほとりに広がるこの恵まれた環境の中で、多くの学びを得るとともに、多くの人との出会いにも恵まれたことは、私にとって大きな財産になります。

スポーツ大学で学んだ私たちにとって、日々の努力の積み重ねや仲間と共に高め合うことの大切さは、学生生活を通して実感してきました。大学院での日々の中で、経験してきた一つ一つの出来事も、これからの人生を支える大切な糧になると信じています。

これから私たちは、それぞれの新たな一步を踏み出します。進む道や環境は異なりますが、今日という節目の日を新たな出発点として、この大学で培った知識や経験、そして人とのつながりを胸に、社会に貢献できるよう歩んでいきます。

最後になりましたが、本日もご臨席を賜りました皆様をはじめ、私たちの学生生活を支えてくださった教職員の皆様、そしてこれまで温かく見守り続けてくれた家族や周囲の方々に、改めて深く感謝申し上げます。皆様のご健勝とご多幸、並びにびわこ成蹊スポーツ大学のさらなる発展を心より祈念し、修士課程修了生代表の謝辞とさせていただきます。

2026年3月19日  
大学院 修了生代表  
濱野 佑理